

経済・金融フラッシュ

No.07-106 2007/11/21

貿易統計 07年10月～米国向け以外の輸出が好調

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

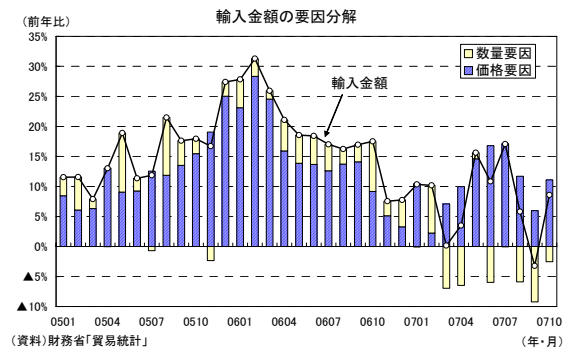
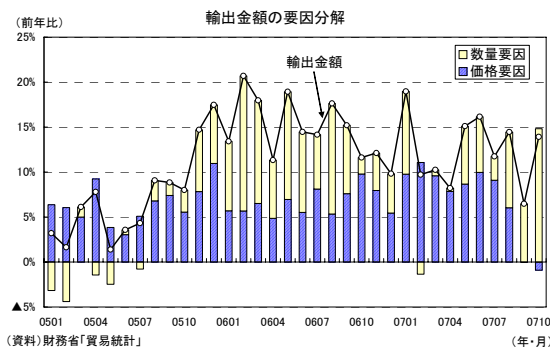
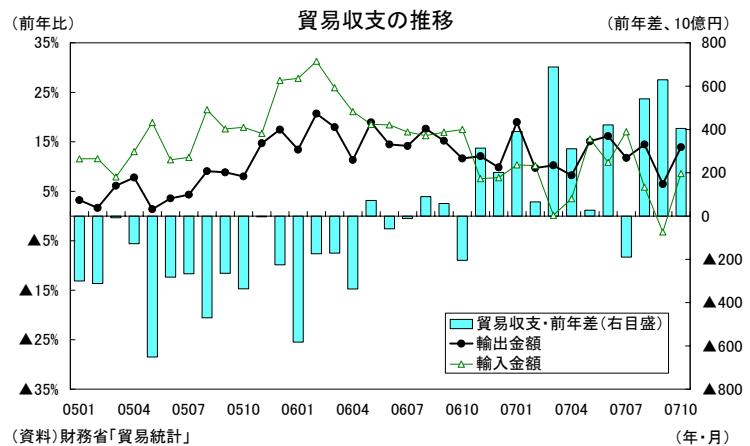
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は3ヵ月連続で改善

財務省が11月21日に公表した貿易統計によると、10月の貿易黒字は10,186億円（前年比66.1%）となり、ほぼ事前の市場予想（ロイター集計：10,522億円、当社予想は8,543億円）通りの結果となった。貿易収支は3ヵ月連続で前年よりも改善した。

輸出価格は前月に続き前年比マイナス（9月：前年比▲0.0%→10月：▲0.8%）となったが、輸出数量の伸びが大きく拡大（9月：前年比6.5%→10月：同14.9%）したため、輸出金額は前年比13.9%（9月：同6.5%）と2ヵ月ぶりに二桁の伸びとなった。

輸入金額は、輸入数量が前年比▲2.4%（9月：同▲8.9%）と減少幅が縮小したことに加え、原油高の影響などから輸入価格が前年比11.3%（9月：同6.3%）と伸びが高まったため、前年比8.6%（8月：同▲3.2%）と2ヵ月ぶりに増加に転じた。

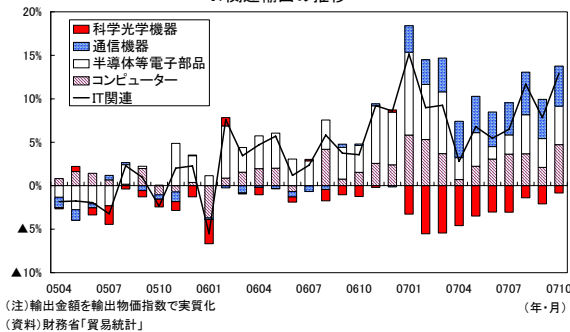


2. 米国向け以外の輸出が好調

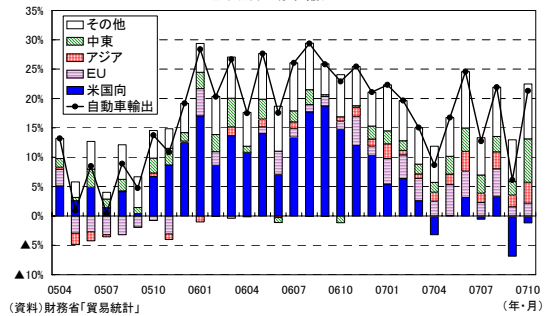
輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、科学光学機器（前年比▲5.4%）が減少したものの、通信機（同 113.5%）が3ヵ月連続で100%を超える高い伸びとなり、コンピューター（同 9.0%）、コンピューター・部分品（同 8.3%）、半導体電子部品（同 7.0%）も堅調を維持したため、全体では伸びが高まった。国内の電子部品・デバイスの出荷・在庫バランスは着実に改善に向かっているが、IT 関連輸出の増加は在庫調整の進展を後押しする要因となっている。

自動車輸出は前年比 21.3%と9月の同 8.9%から伸び率が急拡大した。EU 向け（前年比 16.0%）、アジア向け（同 54.4%）、中東向け（同 107.0%）等が引き続き高い伸びとなり、米国向けは前年比▲2.6%と9月の同▲15.2%から減少幅が縮小した。

(実質・前年比) IT関連輸出の推移

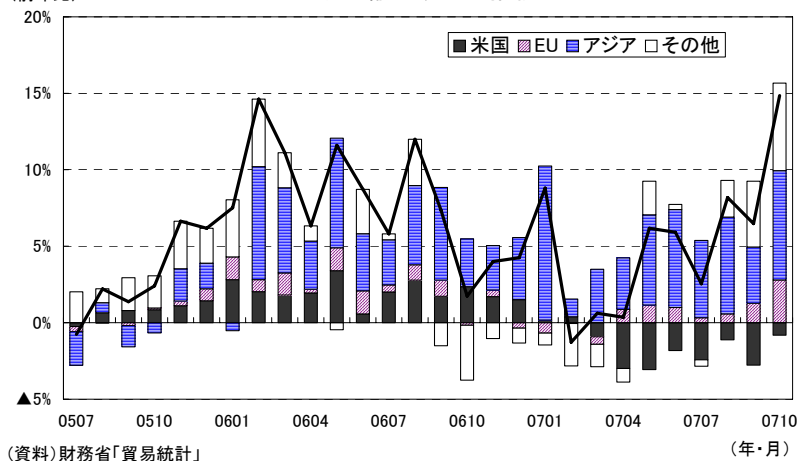


(前年比) 地域別自動車輸出



輸出数量指数を地域別に見ると、EU 向けが前年比 21.5%（9月：同 9.7%）、アジア向けが前年比 14.6%（9月：同 7.5%）と伸び率が急拡大した。米国向けは前年比▲3.3%（9月：同▲11.9%）とマイナス幅は縮小したものの、他地域に比べると依然低調となっている。

(前年比) 地域別輸出数量の推移





輸出数量の伸びを地域別の寄与度で見ると、米国向けの減少をそれ以外の地域向けの増加が大きく上回る形が続いている。特に、このところ中東、ロシアなど、主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向けの輸出の好調が際立っており、8月が前年比2.4%、9月が同4.8%、10月が同5.7%（いずれも寄与度ベース）と輸出全体の押し上げ幅は拡大傾向にある。

米国経済は、4-6月期に続き7-9月期も前期比年率4%近い高成長となったが、10-12月期は住宅投資の減少継続や個人消費の減速などから年率1%台の低成長が見込まれている。米国向けの輸出はこのところ持ち直しの兆しも見られるが、先行きは再び低迷する可能性が高い。

当面は、米国向け輸出の低迷をアジア、EU、その他地域向け輸出の増加がカバーする形が続くことが予想される。しかし、米国経済の減速がさらに本格化すれば、世界経済もある程度の減速が避けられなくなると考えられるため、輸出全体の伸びも先行きは徐々に鈍化する可能性が高いだろう。